

Topic 1

入試の登竜門、センター試験を正しく知ろう！

受験生にとっては、夏が「天王山」と言われます。勝負を分ける重要な時期ですので、気合も入っていることと思います。ただ、精神論だけにたよった勉強法はお勧めしません。勝負に勝つために必要な考え方を身につけてほしいと思います。今回は、この時期にセンター試験について正しく知ることの重要性について確認しましょう。

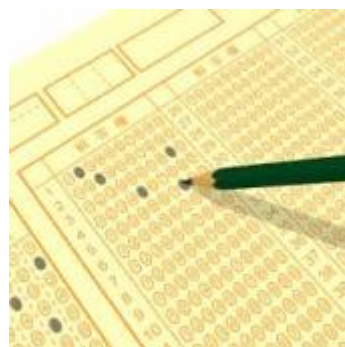
「あなたはセンター試験について、どの程度正確な情報を手に入れていますか？」こう言われると、普段入試情報を色々なところから手に入れている人でもなかなか即答できないのではないのでしょうか。ここでは、細かいデータ（受験者数、採用大学数、平均点など）は脇において、あなたにとって必要かつ正確なセンター試験の知識について確認します。

あなたにとって必要なセンターの知識とは、「①志望校合格のために、センター試験で何点得点する必要があるのか？ ②現時点で何点取れる実力があるのか？ ③その差を埋めるために何をすればよいのか？」を知っているかどうかということです。

①については、資料などで調べましょう。センター試験で必要な科目がまだ決まっていないということがないように、できるだけ早く受験科目を確定してください。

②については、「受験勉強を始めて間もないから、センター試験で何点取れるかなんて分からない（まだ分からなくても良いのでは…）」という人がいますが、それは間違いです。特に「センター試験は高2までの教科書内容から出題されるから、ある程度解けるはず」と高をくくっている人が、実際にセンター過去問を夏休み明けに初めて解いて、あまりの難しさに落胆し、志望校変更を余儀なくされるという例が毎年あります。センター（と同等レベルの）問題がふんだんに載っている教科書はありません。教科書レベルの問題を解いていけば、センターはクリアできるという「神話」的な思い込みは捨てましょう。まずは、センター過去問を自分で解いてみて、自分のレベルを「事実」として確認してください。

③をきちんと意識できているかどうか、夏の勉強の効率を大きく左右します。センター試験の出題傾向を把握し、自分が重点的に勉強するポイントを知っておくことで、それに沿った受験勉強ができ、志望校合格に一步も二歩も近づくことができるのです。たとえば、センター試験の単語で分からない単語が多いと実感すれば、英単語暗記に熱が入ります。また、数I・Aの「三角比」では、円に内接する四角形を問題文にしたがって自分で書いてから解く問題が頻出です。これは教科書には載っていない問題です。



もちろん、夏休み後に行うセンター過去問演習も重要です。ただし、この演習の目的は、弱点克服ではなく、時間配分に気をつけて「得点力を高める」ことにあります。夏休み中のセンター対策は秋以降、「得点力を高める」ための前提として、「現在の実力とセンター試験のレベルの差を正確に把握して、弱点を克服すること」が目的になります。夏休みが明けて、「センターで点が取れない！！」と後悔することのないよう、しっかり自己分析しておきましょう。



夏休みに入り、受験生は非日常的な勉強を経験すると思います。日々の長時間の勉強が続く、疲れが蓄積してしまう時期がやってきますが、体調管理（特にミネラル補給）に注意して、志望校合格の道を一步一步進めてください。ここでは、夏休みの学習効率を高めるための「視点」を紹介したいと思います。

1. 長期的視点（夏休み全体の計画）

長い夏休みを無計画に行き当たりばつりの勉強をして過ごそうという人はいないと思いますが、綿密に計画を立てて臨んでいる人も少ないでしょう（出来ている人はすばらしい！）。計画を立てる際に、次の点を外していないか確認してください。

合格とは、受験科目の合計得点が、その年の受験生の合格最低点を越えること。

得意科目をいくら頑張っても、苦手科目が足を引っ張ったため、合格最低点を越えない（＝不合格）ということがあってはなりません。極端な苦手科目（他の科目より20点以上低い科目）があると、合計得点はなかなか合格最低点まで伸びません。克服が不可能な苦手科目だと判断したら、思い切って受験科目から外すことも選択肢に入れましょう。その判断は夏休みが終了する前にすることが必要です。

受験科目の合計得点をどのように伸ばしていくのか、そのための勉強時間の配分を自分自身の受験科目に照らして決めましょう。

2. 短期視点（1日の計画）

大まかな受験科目の勉強時間の配分が決まったら、1日の中でどのような順序で、どの科目のどんな内容の勉強を進めるのか考えます。

みなさんが「20桁の数字を1回聞いた後に復唱しなさい」と言われたら、復唱したときに合っている数字はどのくらいでしょうか。合っている数字の数は個人差があるでしょうが、初めの方の数字と最後の数字は合っている人が多いという傾向があります。それは「記憶は初めと終わりが強く残る」からなのです。

したがって、英単語や社会などの暗記事項の勉強は1日の初めと終わりに配置するのが、理に適っています。理系の人は、計算問題など作業的な要素の強い（決まりきった手順で正解にいたるもの）勉強を、思考力を要する科目の前に差し込むと、脳が活性化して効率が上がります。また、単純な暗記作業（英単語、一問一答など）は長時間行うよりも短時間に分けて複数回繰り返しましょう。具体的には、英単語暗記を2時間通して勉強するのは非効率なので、15分ずつ8回に分けるなどして、思考力を要する英文解釈や現代文の読解などの間に差し込むと効果があります。

長期的・短期的な両面の視点から、効率を重視した計画を立て、夏の成果を9月以降の模擬テストで出していきましょう！



1 法政大 英語外部試験利用入試を導入！

法政大学は従来の入試方法に加え、英語外部試験を活用した一般入試を 2016 年度から実施する。英語外部試験とは「TOEFL」や「実用英語技能検定(英検)」などで、一定の点数を持つ受験生については英語の試験を免除する。留学経験者など、グローバル化に対応した推薦入試も導入する。入試方法を多様化することにより多くの受験生の獲得につなげる目論見である。

具体的には、6 学部 10 学科が外部の英語外部試験を入試で活用することになる。文系は国語か数学、理系は数学のみの点数で可否を決める。外部試験の成績は 14 年 2 月以降の結果が対象となる。各学科で 2~5 人を受け入れる。

英語外部試験は、出願資格として利用する大学や、判定に用いる大学など利用法はさまざまであるが、来春は法政大の他に、青山学院大や、立教大、中京大、南山大、立命館大、関西学院大などで、英語外部試験を活用した入試を実施する。これは、4 技能に長けた学生を獲得したいという、大学側からのメッセージである。

【法政大学 英語外部試験の基準】

| 英語外部試験 | GIS (グローバル教養学部) | 人間環境学部 | 現代福祉学部 | スポーツ健康学部 | 情報科学部 生命科学部 |
|----------------------------|--------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| TOEFL・IBT | 76 点以上 | 57 点以上 | 57 点以上 | 57 点以上 | 52 点以上 |
| TOEFL・PBT | 540 点以上 | 490 点以上 | 500 点以上 | 490 点以上 | 470 点以上 |
| IELTS (Academic Module) | band 6.0 以上 | band 5.5 以上 | band 5.5 以上 | band 5.5 以上 | band 4.5 以上 |
| 実用英語 技能検定 | 準 1 級以上 | 2 級以上 | 準 1 級以上 | 準 1 級以上 | 2 級以上 |
| TOEIC | 820 点以上 | 600 点以上 | 600 点以上 | 600 点以上 | 500 点以上 |

2 新大学入試 素案発表！

大学入試センター試験に代わり、2020 年度から実施する新テストの在り方を検討する文部科学省の有識者会議が 6 月 18 日が開かれ、改革の素案が示された。

新たに導入する記述式問題については、コンピューター採点などの体制整備が必要なため、導入当初は短文での解答とし、次期学習指導要領で学ぶ高校生が受験する 2024 年度からは、長文解答の問題を出題するとしている。

このほか、2024 年度からは難関大学の選抜にも十分に対応できるよう、難易度の高い問題も盛り込む方針。有識者会議は今後の議論を踏まえ、今夏をめどに中間報告をまとめる。素案によると、センター試験に代わる新テスト「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」には、受験生の思考力や表現力を測るため、現行のマークシート方式に加え、記述式の問題も導入。当初は数十字程度の短文での解答とし、その後は長文解答の出題に移行することを目指すという。

3 文科省 国立大学学部の必要性を見直し！

文科省は 6 月 8 日、全 86 の国立大学に、第 3 期中期目標・中期計画(2016~21 年度)の策定にあたって、教員養成系や人文社会科学系の学部・大学院の廃止や転換に取り組むことなどを求める通知を出した。

国立大に投入される税金を、ニーズがある分野に集中させるのが狙いだ。これに対して、「社会に必要なか否か、というのはすぐに判断できない」「目先の利益だけを追っている、今後の変化に対応できない」などの反発の声が挙がっている。



■ カリキュラムとシラバス

カリキュラムとは、学部・学科などの教育内容を体系化したもの。大学の科目は教養科目と専門科目からなっていますが、その比重をどうするか、専門科目を何年次から始めるか、科目を必修にするか選択にするか、ゼミや研究室所属を何年次からとするか、などが盛り込まれています。

シラバスとは、授業計画のこと。講義が何回にわたって行われ、各回でどのような内容が扱われるかや、それぞれの回に備えて読んでおくべき本や論文などが記載されています。科目は同じでも、教員によって講義内容が違うことがわかり、履修登録の参考になります。また、予習のガイドともなります。

■ 単位と履修登録

単位とは、履修した科目の量を数字に表したものです。週1回2時間の講義科目は、予習・復習の各1時間を加えて計4時間ということで4単位、演習・外国語科目は予習・復習が要らないということで2単位と定められています。1学年2期制の場合は、講義科目は2単位、演習・外国語科目は1単位ということになります。卒業に必要な単位は通常128以上ですが、学期が始まる前に履修登録をする必要があります。

履修登録とは、履修しようとする科目を登録する手続きのこと。登録できる科目は、基本的に自由に選べますが、開講時間が重なっていたり、科目数や人数の制限がある場合は別の候補から選ぶ必要があります。

■ 教養科目と専門科目

教養科目は、学部や学科の専門科目を学ぶ前段階で、あるいは専門科目の履修に併行して学ぶ科目。大学には専門家の育成と共に、市民社会の担い手である教養人を養成する役割がありますが、そうした市民のベースとなると考えられているのが、人文・社会・自然科学からなる教養科目です。多くの大学では、教養科目を一般教養科目、普遍教育科目などとして、1年次から2年次にかけて、大学によっては4年間かけて履修できるようにしています。

■ 必修科目と選択科目

大学の授業には、単位を取得しないと進級や卒業ができない**必修科目**と、自由に選択できる**選択科目**、指定された科目のうちいずれかを履修しなければいけない**選択必修科目**があります。

医学部や歯学部などの医療系学部や理学部、工学部などは、基礎から応用へと積み重ねていくため、必修・選択必修科目が多いが、文学部や経済学部、社会学部などの文系学部は、語学などを除いて必修科目を減らす傾向にあります。

■ 卒論と卒研

卒論とは卒業論文、卒研とは卒業研究のこと。授業や教科書で知識を学び取る高校までの学びに対し、大学では、講義をベースに本や論文を読んで内容や問題点を議論し、自分の考えをレポートや論文にまとめるという方法をとります。そして、卒業に当たって、所属ゼミや研究室で、研究したテーマや実験結果を論文や作品にまとめることが求められるのが一般的です。これを文系では卒論、理系では卒研、芸術系では卒業制作と呼んでいます。

